

令和2年度 江戸川区立葛西中学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	「豊かな心」 ・自ら進んで学ぼう ・責任を果たそう ・健康な生活を送ろう	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもをかわせてよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた生徒 ・人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、生徒・保護者から信頼される教師
--------	---	----------------------------	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 同一の校舎である併設型小中学校の強みを生かした小中連携の教育活動を行うことができた。 経営支援部を設置し、決裁システムを導入したことで、併設型小中学校を円滑にスムーズに運営できた。</p> <p><課題> 小中を通じたさらに強化したカリキュラムマネジメントによる確かな学力をつけるための授業改善。 不登校や不登校傾向の生徒を減らすため、生徒・保護者の気持ちに寄り添った指導の推進や特別支援教育の理解。</p>
-------------------	--

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	小中教員によるそれぞれの児童・生徒への授業参観と実践	お互いの授業を見合う授業参観を年3回実施 児童生徒の交流を年3回	A	A	○避難訓練は合同で実施し、急な集団下校時など臨機応変に行動できた。 ○中学校英語科教員による小学校への乗り入れ授業を11/30,12/3,4,5に6年生に実施した。2/1～6授業公開週間として小中教員の交流ができた。	A	○給業式、終業式を合同で行うことで小中の交流があり、お互いの距離が縮まっていると思う。 ○授業体験や部活動体験があることで連携教育が推進されている。	小学校中学校ともに防災教育を充実させ防災に対する意識をさらに高めていく。
	「あじみこしわ」の推進	生徒が自主的に「挨拶、時間厳守、身だしなみ、言葉遣い、姿勢」に留意して生活	生徒会による自主的な実践活動の実施 委員会による活動の実施	「自分によいところがある」を80%以上にする	B	B	○生徒会役員が朝礼の司会進行や掲示物の充実、朝の挨拶運動など「あじみこしわ」を推進した。 ●左の数値結果は1年71%、2年80%、3年84%で2つの学年で目標を達成できた。	B	○生徒会主導で「あじみこしわ」が推進されていると思う。 ●欲を言えば、もう少し全生徒が一体となり取り組めるが良い。	生徒会活動を通して、さらに推進していく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	教室でのタブレットPC、プロジェクトの活用	ICT研修を年3回実施LICT活用実績教員を80%以上にする。	A	A	○ICT研修を実施し、ICT活用実績教員の目標を達成した。 ●活用頻度は教科の特性や教員に差がある。またプロジェクトが天候により見にくいのも課題である。	B	○プロジェクトを使用した授業が定着しており、より充実した授業になっていると思う。 ●担当の先生によって、授業中の指示が違う等、生徒が混乱することもあるため、わかりやすい対応をお願いしたい。	ICTを活用した授業を公開する。また有効な活用方法を共有する。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実	特別支援教育委員会の定期的な実施 巡回指導員、支援員、心理士との円滑な連携	教員アンケートや保護者アンケートの肯定的評価が90%以上にする。	A	A	○引き続き特別支援教育推進委員会を毎週1回開催できている。 保護者や生徒に関する情報共有ができていく。	A	○積極的に取り組まれていることが、情報提供からよくわかる。 ○今後も継続して取り組んでいただきたい。	SCを講師とした校内研修会の実施をする。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	「対話」形式を取り入れた授業の実践 生徒の授業評価の活用	教員アンケートでの振り返りでの実績教員を80%以上にする	A	B	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教科での授業で話し合い活動を充実させた。生徒・保護者アンケートで肯定的評価を得ている。	B	○生徒間で学力の差があることは仕方ないが、その差が少しでも縮まる指導をお願いしたい。 ○テスト前に質問週間を設ける等、学力向上に取り組んでいる。	定期考査におけるD層に位置する生徒への補習を強化する。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	朝読書の推進 ポップ作りや紹介文の作成など成果物を展示・掲示する 学校図書館を利用した授業を実施する	月間で読書ページを100ページ以上にする ミニ展示会で全員展示する 学校図書館での授業を1～2教科で実践する	A	A	○朝読書を毎日実施している。 ○成果物の完成に向けて取り組んでいる。情報の収集・整理・分析を行い、自分の考えを論理的にまとめる力がついた。	A	○毎朝、読書をする時間を設けることで、生徒たちの活字離れを防げていると感じる。 ○図書館も本が充実しており、ポップも生徒たちが作る等、積極的に取り組んでいる。	継続していく。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	保健体育の授業開始の5分間で補助運動を実施する	体力テストの結果を昨年度と比較して上回るようにする。	A	A	○体育の授業開始時間の5分で補助運動を実施している。体力テスト結果の総合得点は、全国・都平均それぞれを上回っている。	A	○校庭及び屋内運動場を広く使用し、運動することで、体力の向上が図れている。 ○来年度は運動会、マラソン大会の練習等を含め、より一層の向上を期待する。	継続していく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	講演会の実施 オリパラコーナーの充実	オリパラコーナーを設置する オリパラノートを検討する	C	C	○各教科でオリンピック・パラリンピックに関連付けた授業を計画に基づいて実施した。三段跳びの選手の講演会は実施できた。 ●オリパラコーナーを充実させられなかった。	B	○生徒たちにオリパラ開催は周知されており、興味を持つ生徒は多い。 ○コロナ禍でも、三段跳び選手の講演を行う等、できる範囲での取り組みが行われている。	オリパラに関連付けた成果物を作成し展示して、オリパラコーナーの充実を図る。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	究極の小中連携の実施	出前授業を年2回実施 生徒アンケートでの肯定的評価80%以上にする	A	A	○ALTの活用および少人数授業による効果的な英語教育を実践できた。 ○「自分で考え、考えたことを発表する機会がある」については全学年で高い評価だった。	A	○ALTの授業では英語での質問と回答等により、外国語への関心が深まっている。 ○今後も継続していただくと共に、授業数が増えればよいかなと思う。	継続していく。
健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	生活指導部会を毎週実施し、情報共有を徹底し、早期対応を図る	生徒アンケートの否定的評価を4%以下にする 2学期以降の新たな不登校出現を0にする	B	B	○生活指導部会を毎週実施し、生徒に関する情報共有を日常的に行った。 ●規範意識の質問に対し、わずかであるが目標を達成できなかった。また、2学期以降の不登校出現を0にすることはできなかった。	A	○生徒指導に積極的に取り組んでいると思う。 ○現在発生がないSNS等の学級内、学年内のトラブルが少しでもなくなるよう取り組んでいたければと思う。	継続していく。	